

## 雪舟さんの修行した金山寺を訪ねて

雪舟さんが修行したという共通点をもつ宝福寺と金山寺画聖のとりなす縁で市民の交流と友好を深めるため、総社市文化振興財団が公募で結成した訪問団が中国鎮江市を訪ねた

「やっと来たな」。

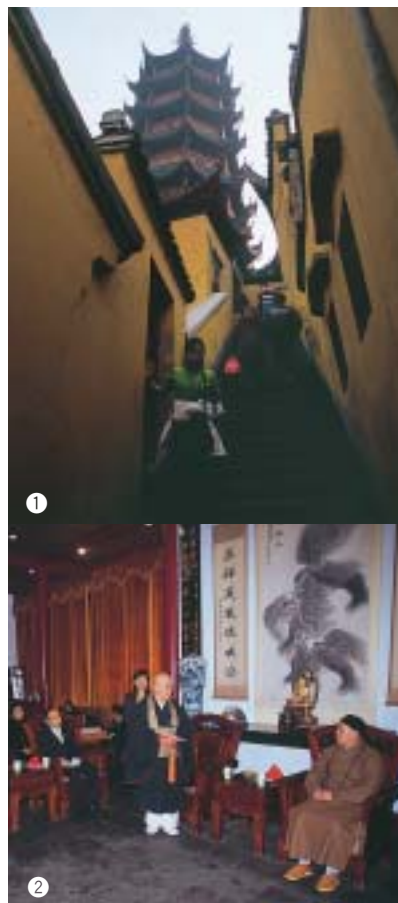
中国鎮江市訪問団の小鍛冶元慎団長は、金山寺での歓迎交流会で胸いっぱい感動をこら表現した。雪舟の「唐土勝景図巻」に描かれている金山寺。没後500年の節目の年に、雪舟のあこがれの地に立てた喜びは、団員全員が感じていた。

画聖・雪舟の修行の寺という共通点をもつ金山寺と宝福寺。この縁をもとに市民レベルでの交流を図ろうと中国鎮江市訪問団は結成された。

公募で集まった市民約40人の訪問団は2月13日から4日間の日程で訪問。金山寺での交流に参加した。2月14日、金山寺に到着した訪問団は、金山寺の心澄住職による歓迎のお経で出迎えられた。引き続き小鍛冶団長が、「雪舟禅師を想う」と題した頌経を読み上げた。雪舟の功績をたたえた七言絶句だ。この後、訪問団は境内をひと回りし、歓迎交流会に望んだ。



「唐土勝景図巻(京都国立博物館蔵)」。長江(揚子江)に浮かぶ金山寺が描かれている



① 狭く急な階段が金山寺の境内を巡る  
② 金山寺で心澄住職に末永い交流を求める小鍛冶団長  
③ 八角七層の塔から見た金山寺の建物群  
④ 和やかに行われた鎮江市との会見  
⑤ 金山寺の説明を聞きながら境内を巡る団員  
⑥ 訪問団の代表と握手を交わす心澄金山寺住職

ることができたことをうれしく思っています。雪舟は絵や禅を学んで、私どもにたくさんの宝を残してくれました。そして、今後、友好と交流が長く長く続くよう願っています。小鍛冶団長は、雪舟のもつ縁を大切にしながら交流を深めていきたいと訪問の意図を伝え、心澄住職と笑顔で握手をかわした。

また、この日の夕方、鎮江市幹部と訪問団による会見が行われた。ここでも雪舟のとりなす縁を大切に思い、「友好を深め、往来を続けていきたい」と意見が一致した。

訪問団は、金山寺をはじめ、焦山、甘露寺、長江(揚子江)など、雪舟さんが見たであろう景色を目の当たりにすることができた。文化の重みと景色の雄大さを、団員一人ひとりが雪舟さんと同様に体で感じることで、雪舟さんを縁とした今後の交流の第一歩をしるした意義深い訪問だった。

### ◎雪舟(1420~1506)

赤浜で生まれ、幼年時代は宝福寺で修行する。宝福寺には、涙でネズミを描いた逸話が残る。その後、京都、山口で過ごす。47歳のとき、中国に渡り、水墨画の技法を学ぶ。このときに「唐土勝景図巻」などを描いている。約3年間を中国で過ごした後、帰国する。帰国後、「天橋立図」などを描いている。水墨画を大成させ、画聖と呼ばれる。死没地は山口県など諸説がある。

### ◎鎮江市(江蘇省)

上海から北西約240kmに位置し、人口260万人、面積3,843km<sup>2</sup>の都市。同市には3,500年の歴史があり、金山寺をはじめ、甘露寺、焦山など多くの歴史遺産が市内に点在している。また、市の北部を長江(揚子江)が東西に流れ、大運河と交差していることから交通の要衝であり、古くから商業都市として発達してきた。

### ◎金山寺

鎮江市区の西北に位置し、標高47mの山にある禅宗の名刹。しかし、山を埋め尽くすように本殿や八角七層の慈寿塔をはじめ、楼閣、各種建築物が建ち並び、「寺の中に山がある」という表現でよく紹介されている。

歓迎交流会で心澄住職は「明の時代に雪舟が渡って来て、金山寺で約2年間過ごしました。今、この寺の歴史の本の中に、雪舟の修行と生活のことが書いてあります」と、今も金山寺には雪舟が息づいていることを紹介。「雪舟禅師が530年前にこの寺を訪ねたことを、体で感じ取

雪舟さんがつないだ交流のかけ橋



「雪舟七十一歳像(藤田美術館蔵)」